

# あさか訪問通信



## 抜歯時の留意すべき事



Halloween

R5.10月号

うららかな秋晴れが続いておりますが、皆様お変わりございませんか？  
歯磨きをしていて、いつの間に歯ぐきから自然に出血してしまう経験  
ありますでしょうか？そのほとんどが『歯周病』といった歯肉の病気で、  
気づかぬうちに進行してしまう為、気づいたときには重症化し、抜歯  
を勧められることがあります。そこで、高齢者における抜歯のリスクに  
ついて紹介したいと思います。

## 持病の薬は必ず申告を

- 脳梗塞
- 心疾患（狭心症・心筋梗塞）
- 糖尿病
- 認知症（アルツハイマー型・脳血管性）
- パーキンソン病
- 血液をサラサラにするお薬
- 骨粗鬆症の薬または注射を受けている方など

※自身の判断で薬を止めるのは危険です。抜歯前にはお医者さんの許可が必要なので必ず歯科医師に申告してください。



## 体調管理も大切

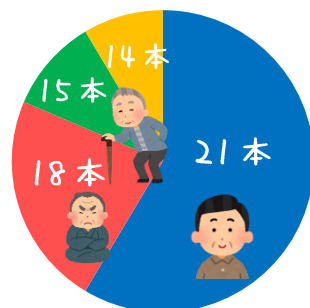
『歯ごとき』と思いがちですが、抜歯も小外科。親知らずの抜歯では、  
骨を削る場合もあり、傷を治すには体の抵抗力が必要です。  
体調を整えておきましょう。

## 抜歯までの流れ



★傷口が治ってきたら、入れ歯の作製や修理で修復していきます。  
お体や歯の状態によりフリッジにすることも可能です。歯科医師が、  
本人またはご家族に希望をお聞きして治療計画を立てます。

## 8020運動



残存歯数平均

- 70~74歳
- 75~79歳
- 80~84歳
- 85歳以上

歯科疾患実態調査によると、8020  
達成者は51.6%でした。  
またお口の機能のうち『噛めないも  
のがある』は65歳から1割を超え、  
『口が渇く』は75歳から1割を超え  
ていました。虫歯や歯周病対策をは  
じめ高齢者世帯への口腔機能対策の  
さらなる推進が必要です。

## 口腔ケアが大切

口腔ケアの目的には、口の中を清潔にするだけでなく、歯や口の疾患を  
予防し、口腔の機能を維持することも含まれます。  
また、口腔ケアはQOL（生活の質の向上）のみならず、誤嚥性肺炎  
などの全身疾患の予防、全身の健康状態の維持・向上にもつながります。  
歯ブラシが行き届かない所などは、私たちに任せください。  
1本でも多くの歯を残し生涯美味しく食事を楽しみましょう♪  
定期的に歯医者さんに受診することをお勧め致します。